■シリーズ■

中学校武道 ―授業の充実に向けて― 113

つまずきをどう克服したか⑥（なぎなた―「替えて」授業を目指して）

一戸町立一戸中学校

岩手県の北部に位置する一戸町。町には史跡として御所野遺跡があり、北海道・北東北では、御所野遺跡を含めた縄文遺跡群の世界遺産登録を目指している。一戸町は、産業として農業が盛んで、およそ1万3千人が生活を営んでいる。

一戸町は、「2016年希望郷いわて国体」にて、なぎなたの競技会場となったことをきっかけに、「なぎなたの町、一戸」を目指すべく学校授業においてもなぎなた授業を取り入れた。現在、町内には一戸中学校を含めて2校の中学校があり、両校ともなぎなた授業を行っている。

昨年11月9日の一戸中学校と一戸町教育委員会に対する取材をもとに、「加えて」授業から「替えて」授業を目指す取組を紹介したい。

1 「なぎなたの町」を目指す

近年、一戸町の少子高齢化に歯止めがかからず、当時の稲葉暉町長は人口減に悩んでいた。

「何か町おこしとなるきっかけはないだろうか…」「1970年にいわて国体が開催されたが、一戸町では何も実施されなかった。今回の2016年いわて国体では何かの競技を誘致したい」。稲葉町長のその言葉をきっかけとして、一戸町では生涯学習課を中心に検討を重ねていった。浮かんできたのは「なぎなた」であった。

調べてみると、元来、一戸町の地域一帯は、なぎなたと深い縁があった。天正19年（1591）、豊臣連合軍に攻められ落城に至った姉帯城の小滝御前は、数十倍もの敵を相手になぎなたを縦横無尽に振り回す、なぎなたの名手であったし、地元に伝わる郷土芸能「七つ踊り」では、手に持つ七つの道具の中に、なぎなたを短くしたものを持って舞っている。また、一戸高校の前身である旧制高等女学校では正課としてなぎなたが取り入れられていた。

このように一戸町は、なぎなたゆかりの地であることが判明し、以上のような歴史的背景が「なぎなたの町」を目指す十分な理由となった。こうして一戸町は、いわて国体・なぎなた競技の開催地として立候補したのである。

平成21年（2009）9月、一戸町に吉報がやってくる。国体・なぎなたの開催地として一戸町が内定したのである。これをきっかけに一戸町はなぎなたを町技として位置づけ、「なぎなたの町、一戸」を目指し始めた。

一戸町役場

2 学校武道としてのなぎなた導入

平成28年（2016）のいわて国体に向けて動き出したなぎなたの町おこしであったが、一戸町には指導者も選手もいなかった。そこで平成20年に、町では小・中・高校へのなぎなた導入の可能性を探り始める。まずは学校に広めて競技人口を増やし、いずれは選手育成に繋げたいと考えたのである。当初は中体連に加盟していない種目を実施するのは難しいのではないかとの声もあったという。

しかし、同年3月、小・中学校の新学習指導要領が公示。平成24年度より中学校において武道が必修化され、なぎなた導入に追い風が吹いたのである。また、同年に一戸高校において盛岡二高のリズムなぎなた演武が披露された。これを高校生と多くの一般観覧者が見学し、さらに機運が高まった。

これらをきっかけに、一戸町は生涯学習課を中心にして、中学校授業の導入に向けて、具体的な協議を行っていく。

3 「加えて」授業として開始される

平成21年5月、一戸町中学校体育検討委員会では武道授業におけるなぎなたの導入について検討がされている。そこでは、告示された学習指導要領に則して示された各種運動種目に加えて、履修するという方向で協議が行われている。しかし、「指導要領に示されていないので何を教えればいいかわからない」「体育教師が指導できない」「評価、計画、時数がわからない」などの問題点が挙げられた。

そのような問題を抱えながらも同年には、早くもなぎなた授業を開始している。岩手県なぎなた連盟協力のもと、4校（当時、一戸町には4校の中学校があった。現在は2校が閉校となっている）全ての中学校の女子において、11月に剣道に「加えて」実施された。学校授業での指導法もまだ確立されていないため、なぎなた教室での指導法をそのまま学校現場に持ち込んだという。

4 「替えて」授業の可能性を探る

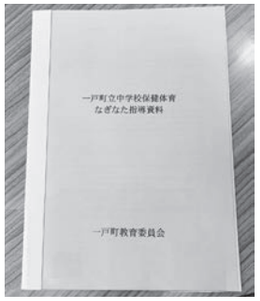
平成22年5月には一戸町なぎなた協会も設立された。同年度からは、一戸町のなぎなた指導者であり、一戸町教育委員会生涯学習課の西村美香氏（錬士）を中心に授業が展開されてゆく。

武道必修化となった平成24年度。防具、なぎなたを町が購入して各学校へ配布された。また、なぎなた授業を開始して3年が経過し、各学校では「加えて」授業としてのなぎなたの経験も出てきて前述の諸問題も整備され始めた。そこで教育委員会では「替えて」授業として実施可能か、改めて検討がなされた。しかし、継続的な指導者の確保、指導要領の整備などの問題が挙げられ、中学校に関しては剣道に「加えて」取り組む

ことに留まった。国体の開催地として決定し、なぎなたの町を目指す一戸町であるが、まだまだ発展途上であることがうかがえる。

「なぎなたの学習指導要領がないならその裏付けとなるものを町独自で作成しよう」と一戸町は試みる。西村氏は岩手県教育委員会の協力を受けながら、学習指導要領の剣道の部分を参考にして『一戸町立中学校保健体育なぎなた指導資料』を作成、平成25年4月に初版を発行している。「替えて」授業を目指して、一つ一つの諸問題を解決する取組が行われているのである。

平成24年には小学校においても総合的な学習の時間での地域学習としてなぎなたに取り組んだり、クラブ活動で導入しており、さまざまな場面でなぎなたに触れる機会を増やしているとのことだ。



一戸町立中学校保健体育
なぎなた指導資料

古館英彦一戸町教育委員会教育長は「一戸町でのなぎなた授業は、『加えて』授業として開始されたが、『替えて』授業を目指している。現在は、『替えて』授業、『加えて』授業のどちらでも学校が選択できるような体制を作っている。しかし、指導者の確保が大きな課題となっている。一戸でなぎなた教室が開始されて8年たつ。現在選手として活躍している子どもたちが、いずれ指導者として一戸に戻ってくる循環ができれば、町技としてなぎなたは完成する」と語った。

5 なぎなた授業の実践

次に一戸町立一戸中学校でのなぎなた授業を紹介する。

町内には一戸中学校と奥中山中学校の2校があり、いずれも西村氏が指導を行っている。一戸中の生徒は全校でおよそ190名で1学年約60名、各学年2クラスとなっている。武道授業は男女別習により実施。本年（平成29年）より、なぎなた専門の疋田（ひきた）かんな氏が保健体育科講師として赴任し、なぎなた授業は、全学年の女子において疋田講師、西村氏の2名により2クラス合同（約30名）でTTとして実施している。

一戸町立一戸中学校

一戸中では春に開催される体育祭で全校生徒による「集団演技リズムなぎなた」が行われている。この体育祭のために3回の授業を春に実施。11月には6回のなぎなた授業が行われた。取材当日は全学年とも11月の3回目の授業。1回目は日本武道協議会発刊の『中学校武道必修化指導書』のなぎなた編と武道編のDVDを視聴。なぎなたと武道全体の知識を深めたという。2回目は演技競技の練習。3回目の当日は演技競技の評価がなされていた。1年生はしかけ応じの一本目、2・3年生は二本目の評価となった。

各学年とも授業の流れは概ね同様である。準備運動、なぎなたを持ち全体での足さばき、ペアになってのしかけ応じの練習を行う。西村氏からは「ものうちでメンを打つように」「相手を意識しながら行うこと」などの注意点が挙げられた。続いて、生徒がなぎなたの刃部を外に向け、整然と並べてから、西村氏より評価の基準3点が説明される。発声（声が出ているか）、着眼（相手の目を見ているか）、気迫・技（気合いがあり、正しい動きができているか）である。生徒には評価プリントが配られ、それぞれの生徒を生徒たちにより評価する。評価は3つの記号で記入する。☆は10点、○は8点、△は5点である。体育授業の評価としては保健体育科講師である疋田氏が行っているが、この評価プリントもある程度の参考にしているという。

第３学年授業①（評価プリントを説明する西村氏）

第２学年授業①（全体練習）

第２学年授業②（疋田氏による指導）

評価は、生徒全員が体育館の側面左右に分かれて、対象となるペアの生徒2名は中央でしかけと応じを一回ずつ行って実施された。生徒は、緊張のせいか、声が小さい生徒もいれば、「メン！」と気合いの入ったかけ声を体育館に響かせる生徒などさまざまであった。西村氏の進行のもと、テンポよく授業は進み、終了した。

2年生の授業後には西村氏より生徒に対して「声が出ていたし、間合いをとるのが上手でした。身体となぎなたが一体になってました」との全体評価が述べられた。

▽1年生

「演技の練習はわくわくしました。きれいになぎなたを振れると嬉しいです。次は防具を着けての授業ですので、なぎなたを思いっ切り振ろうと思います」

▽2年生（なぎなた部）

「部活だと限られた部員での稽古ですが、授業ではクラスの仲間と出来るのでそれが嬉しいです」

▽3年生

「他の授業では礼の指導とかはありません。真剣に礼を行うと、こ

第１学年授業（生徒による評価がなされた）

第３学年授業②（全景）

ころが落ち着き、清々しい気持ちになります」

◎疋田かんな 一戸町立一戸中学校 保健体育科講師

「今年、講師となり、初めてのなぎなた授業でした。授業では礼の部分をきちっとしたいと思っていました。2・3年生はなぎなたが身に付いているので覚えるのが早いですね。個人差はありますが、生徒ができないと思わないよう、『できた』という感覚を大切にしています」

◇

6回目の最後は防具を着けての大会が行われた。なぎなた部にはハンディをつけて大会を実施。大変な盛り上がりをみせて授業は終了したという。

6 まとめ

一戸町なぎなた協会では、生涯武道を目指して、園児から70歳以上の高齢者までなぎなたに取り組んでいる。また、平成26年には町の武道場が完成して剣道の小笠原宏志範士が「士道館」と命名。いわて国体では練習会場として使用され、現在は柔道・剣道・なぎなたの道場として稽古に利用されている。床暖房付きの道場で、稼働率は100％に近い。連日遅くまで照明がついているという。

平成22年より一戸町主催のなぎなた大会を春と秋に実施しており、平成29年の秋季大会からは、県内の小中高校生も受け入れて、57名の参加者が集まり実施されたとのことだ。

選手も着々と成績を残し始めている。第72回国民体育大会では、少年女子演技競技の部で山火ゆか選手（一戸高校・一戸中卒）が準優勝。平成29年度高校総体演技競技の部では、山火ゆか・根反亜日花選手（一戸高校・一戸中卒）が準優勝。日本武道館で行われた平成29年度少年少女武道錬成大会においても中学生の部で一戸中学校のペアが優秀賞に輝いた。

競技者の循環が一巡し、なぎなたが町技として確立する。一戸町の目指す「替えて」授業を実施できる時も近いのではなかろうか。

◎古館英彦 一戸町教育委員会教育長

「一戸町ではなぎなたを通じての人間形成を目指しています。同時に全国で活躍できるような選手を輩出したいとも考えています。その子たちが高校、大学と一貫してなぎなたを続けられるような環境を整えていきたいと思います。そして、成人にまでその取組が広がればと思います」

◎春日川寛治 一戸町なぎなた協会 会長

「一番の課題はやはり指導者の養成です。そして中高年の層も取り入れて会員の拡大をはかり、子どもたちの競技力向上に繋げていきたいです」

◎西村美香 一戸町教育委員会生涯学習課主任

「なぎなた授業を苦手だと思っている生徒たちも授業を重ねるにつれて徐々に興味が増してきているようです。なかなか大きな声が出せない生徒もいますが、この授業がいい機会になればと思います」

（文＝長澤克成、写真＝鈴木智也）

士道館（床暖房付きの道場）

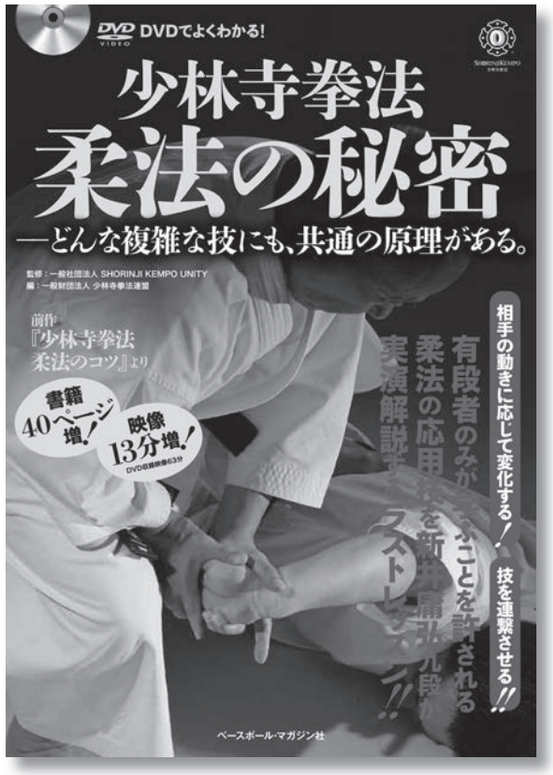
士道館外観

町役場にある
いわて国体のポスター

DVDでよくわかる!

少林寺拳法 柔法の秘密

—どんな複雑な技にも、共通の原理がある。



監修◎一般社団法人 SHORINJI KEMPO UNITY
編◎一般財団法人 少林寺拳法連盟
定価（本体2,000円＋税）／DVD収録映像63分

大好評を博した「少林寺拳法 柔法のコツ」に続く話題の一冊。
書籍40ページ増、映像13分増の豪華版！
どんな複雑な技にも、共通の原理がある。
有段者のみが学ぶことを許される柔法の応用技を新井庸弘九段が実演解説するラストレッスン！

好評発売中

本書で解説する技法 逆手投、龍投、外巻天秤、合掌逆小手、送肘攻、送巻天秤、吊落、切返小手、切返投、切返巻天秤、閂捕、閂片手投、閂外天秤、振捨表投、諸手送小手投、送突倒、腰挫、諸手切返投、巻込小手、首締投、首締投（表）、後襟捕（表・裏）、後首投、片手投切返、送閂小手、矢筈投、外逆手捕、内逆手捕、虎倒

BASEBALL MAGAZINE SHA 株式会社ベースボール・マガジン社
http://www.sportsclick.jp/bookcart/
受注センター 0120-911-410（月～金10:00～12:00、13:00～16:00※除・祝祭日）